

姉妹都市等日本庭園修復モデル派遣事業

事業 分類	姉妹 都市	教育	文化	スポーツ	保健・福祉・医療	経済
		行政	ホストタウン	外国人技能実習	オンライン	その他
自治体	日本：佐賀県鳥栖市		海外：ドイツ・ザクセン-アンハルト州ツァイツ市			

【事例紹介】

交流事業の特色

・海外には日本庭園が500箇所ほどあり、ツァイツ市の日本庭園はその一つ。この日本庭園は、2003年に鳥栖市緑化協会の訪問団からの技術協力により造園され、その後の交流を経て2012年に友好姉妹都市を締結したことから、交流の始まりのきっかけである「フッペルのピアノ」のほか、この庭園も両市の友好のシンボルの一つである。

・2019年には、鳥栖市および鳥栖市緑化協会により、日本庭園の修復事業の支援が行われた。この修復作業は5日間で行われたが、修復作業外の時間には、庭園修復を行うスタッフと現地の住民による文化交流も行われた。

・この交流事業は、国土交通省の「海外日本庭園修復モデル事業」を活用した交流事業である。

鳥栖市 <http://www.city.tosu.lg.jp>

ツァイツ市 <http://www.zeitz.de>



建仁寺垣設置



建仁寺垣設置の完成



建仁寺垣設置の完成



ウェディングの撮影に訪れたカップル

平成 16 年（2004 年）にツアイツ市にて開催される「庭園博覧会」に向け、ツアイツ市長が鳥栖市に平成 14 年（2002 年）に日本庭園を整備するための技術協力を要請し、鳥栖市緑化協会の訪問団の協力により、2003 年に約 1 か月半で日本庭園を完成。

庭園博覧会の終了後は、ツアイツ市のボランティアスタッフにより庭園管理を行ってきたものの、日本庭園独自の技術的な問題もあり、老朽化が進んでいった。そこでツアイツ市は、鳥栖市に対して樹木管理や庭園施設補修への指導・助言を求めたため、令和元年（2019 年）に国土交通省の「海外日本庭園モデル事業」を活用し、修復を行うこととなった。

修復作業に際しては、ツアイツ市および鳥栖市は事前の調査や調整について修復方法等をめぐり何度も協議を行い、綿密な準備を行った。令和元年 7 月 28 日に鳥栖市緑化協会の 3 名がツアイツ市へ渡航し、7 月 29 日から 8 月 2 日までの 5 日間作業を行い、8 月 4 日に帰国した。上記期間の主な作業としては、腐食していた建仁寺垣の支柱撤去、ステンレス製金具設置、支柱建込み、建仁寺垣パネル設置、剪定作業、樹木の支柱設置および竹林剪定が行われた結果、老朽化した日本庭園はかつての美しい姿を取り戻すことができた。

また、派遣した技術者はほぼ毎日現地の住民と交流する機会があり、持参した日本のおもちゃを紹介するなど楽しく交流した。また、日本庭園が結婚式の撮影場所として使われており、いかに現地の人に親しみを持たれているのかを垣間見ることができるなど、相互の文化交流を行うことができた。

【(参考) 姉妹都市の概要】

	鳥栖市の概要	ツァイツ市の概要
人口	73,975 人 (2020 年 12 月末現在)	28,195 人 (2018 年 6 月末現在)
面積	71.72 km ²	87.16 km ²
概況	<p>鳥栖市は佐賀県の東端に位置し、北は脊振山地を隔てて福岡平野、南は筑後川をはさんで久留米市に隣接。</p> <p>九州の主要都市に通じる高速道路や鉄道が交わる交通の要衝という特性を生かして、内陸工業・流通拠点都市として発展してきた。Jリーグ・サガン鳥栖とVリーグ・久光スプリングスのホームタウン。</p>	<p>ドイツ北東部に位置するザクセン・アンハルト州の南端に位置する都市で、年間平均気温は約 9℃で、年間降水量は約 620mm である。一年を通じて冷涼だが、穏やかな気候である。工業団地を備え、化学工業が最も盛んである。ほかに機械工業や環境工学、石炭鉱業もある。</p> <p>1,000 年以上の歴史があり、マルティン・ルターやその子孫に縁の深い教会や大聖堂のほか、17 世紀に建てられた城が保存されている。</p>

【姉妹都市交流に係る周辺情報】

提携年月日	2012 年 5 月 18 日
友好都市交流の経緯	<p>両市は 1999 年から「フツペルのピアノ」による縁で、交流を開始した。学生を相互派遣する子ども交流事業や、市の代表者が相互に訪問するなど両市の友好関係を深めてきた。これまで、築いてきた相互の理解と信頼に基づき、現在及び将来にわたる友好関係が、文化の領域だけでなく様々な領域における交流によって、両市の繁栄と両国の友好親善に寄与し、ひいては世界平和に貢献することを基本理念とし協定を締結した。</p>
今後の展望、課題等	<p>修復については、事前調査の段階で、すべてのやり取りがメールにて行われ、実際に現地に行かないと分からないことが多かった。また、鳥栖市側とツァイツ市側が提案した修復方法が異なったため、内容を確認し細かく調整する必要が生じた。ツァイツ市に到着後、準備してもらった機材等が日本で使われているものより大きく、形や寸法が違っていたが、鳥栖市の技術者およびツァイツ市のスタッフが協議していく中で、細かな調整ができ、修復がスムーズに進められた。</p> <p>作業開始当初、鳥栖市緑化協力会の 3 名および現地スタッフの間のコミュニケーションが不足、行き違いがあったが、作業が進んでいくにつれて、ドイツ人の日本語通訳の方のおかげで、作業を円滑に進めることができた。</p>

(作成年月：2021 年 3 月)

※事例紹介に掲載されております人口、面積等の情報は作成年月時で公表された数値です。また、ホームページのリンク先、掲載動画等につきましては、自治体のホームページの更新等によりリンク切れになっている場合があります。